遠藤栄氏旭日双光章受章記念祝賀会

遠藤食品

全国から300余名が出席
業界発展に尽力した栄誉を称える

2014年秋の叙勲で旭日双光章を受章した遠藤食品株式会社（遠藤栄一社長、栃木県佐野市下彦間町）の遠藤栄代表取締役会長の受章記念祝賀会が18日、栃木県佐野市のホテルサンルート佐野で開催した。

全日本漬物協同組合連合会の近清剛会長を発起人代表とした祝賀会には福田富一栃木県知事、茂木敏充衆議院議員（自民党選挙対策委員長）、岡部正英佐野市長らの来賓をはじめ全国から300余名が出席し、盛大に挙行。全日本漬物協同組合連合会（＝全漬連）副会長、関東漬物協議会（＝関漬）常任顧問、栃木県漬物工業協同組合会長理事などの要職を歴任した遠藤会長は、多年にわたり食品産業の振興に寄与した功績により昨年11月に旭日双光章を受章した。

遠藤会長は昭和36年から漬物製造業に身を投じ、以来53年間、漬物一筋の人生を歩んできた。遠藤会長を陰から支えた邦子令夫人の内助の功によって栄誉を賜ったことに感謝し、今後も業界並びに地域社会の更なる発展に尽力することを改めて誓った。

【発起人】（敬称略）

代表：近清剛、岡部正英佐野市長）、増渕正二（一般社団法人栃木県食品産業協会会長）、島田嘉内（佐野商工会議所会頭）、藤波一博（公益社団法人佐野法人会会長）、西村信作（一般社団法人全国漬物検査協会会長）、秋本幸男（元全漬連会長）、久保廣登（関漬会長、全漬連副会長）、籠島忠作（全漬連副会長）、大羽恭史（全漬連副会長）、遠藤純二（全漬連副会長）、野崎伸一（全漬連副会長）、高嶋良平（全漬連副会長）、藤川研四郎（全漬連専務理事）、泰地武（全漬連監事）、皆川昭弘（東京中央漬物株式会社代表取締役社長）

【実行委員】

実行委員長：秋本薫（栃木県漬物工業協同組合理事長）、岩下和了（同副理事長）、菅野弘（同副理事長）、遠藤栄一（同専務理事）、戸辺徹雄（同会計理事）、荒井一好（同理事）、吉澤啓夫（同理事）、塩田孝（同理事）、吉葉幸男（同理事）、岩下雄人（同監事）、菅野嘉弘（同監事）

遠藤会長と邦子令夫人

300余名が出席した祝賀会

遠藤社長

遠藤会長

遠藤専務

お孫さんたちによる花束贈呈

近氏

秋本氏

茂木氏

福田氏

お礼の言葉を述べる遠藤社長

第一部
100年企業目指す
食文化の一端を担う仕事に誇り

同社経理部主任の小澤雅恵氏と遠藤社長の長女で孫の遠藤悠里さんが司会を務め、叙勲者御夫妻が入場。栃木県漬物工業協同組合理事長で実行委員長の秋本薫氏が挨拶に立ち、「遠藤栄氏は長年に渡り、業界の要職を歴任され、漬物業界の発展に尽くしてこられました。そのような功績が認められ、昨秋旭日双光章を受章されました。これは業界にとっても大変栄誉なことです。本日は多くのご来賓の皆様、業界の皆様、ご友人、ご親戚の皆様をお迎えしてこのように盛大に祝賀会が開催できますことを大変喜ばしく思っています」と開会を宣言した。

発起人代表として全漬連の近会長が挨拶を行い、「遠藤栄氏は現在の遠藤食品株式会社の前身である遠藤食品漬物工場を創業され、以来着々と業績を伸ばされて今日では全国でも有数の漬物会社まで発展させてこられました。その見識と指導力を請われて、栃木県漬物工業協同組合理事長、関東漬物協議会会長、全日本漬物協同組合連合会副会長に就任され、全漬連運営の中枢としてご活躍いただきました。長年に亘る遠藤栄氏の業績と精進が報われ、本日の輝かしいお祝いの日を迎えられたことを心からお慶び申し上げますとともに、長年に亘る遠藤栄氏のご活躍を陰で支えてこられた邦子夫人の内助の功に対しましても心から敬意とお礼を申し上げます」と称えた。

全漬連前会長の秋本幸男氏と栃木漬物協同組合理事長の岩下和了氏が叙勲披露、続いて来賓の福田富一栃木県知事、茂木敏充衆議院議員、岡部正英佐野市長、全漬連副会長で関東漬物協議会会長の久保廣登氏、栃木県議会議員の亀田清氏が祝辞を述べた。福田知事は「遠藤様は生姜で日本一の会社を作りたいとの思いから会社を創業され、日々研究や開発を重ねて遠藤食品株式会社を業務用がりで国内トップクラスのシェアを誇る会社に成長させました。また、漬物業界発展のため、栃木県の漬物業界のリーダーとして後継者の指導育成にも力を注がれてきた遠藤様の漬物づくりにかける並々ならぬ情熱に対し、心より感謝を申し上げます。今回の受章は、遠藤様はもとより漬物業界、また、本県にとりましても大変名誉なことであります。今後とも食品産業の振興、ひいては本県発展のため、ご指導賜りますようお願い申し上げます」と述べた。

茂木氏は「長年、食品産業の発展に務めてこられた遠藤様のご功績が高く評価され、今回の受章の栄に浴されましたことに心よりお祝いを申し上げます。また、遠藤会長の活動を長年に亘って支えてこられた邦子様の内助の功に敬意を表し、遠藤栄一社長はじめ社員の皆様にもお祝い申し上げます。遠藤様におかれましては社業の一層の発展はもちろん、今後ともご自身の豊富な経験を活かした後進の育成、漬物業界の活性化と発展のために一層ご尽力を賜りたいと存じます」と述べた。

岡部市長は「遠藤様は会社の隆盛はさることながら、業界や地元への貢献を念頭に置き事業を展開され、業界では数々の要職を歴任するほか、安佐法人会常任理事や佐野商工会議所常議員を務めるなど、旧田沼町で現在の佐野市の地域経済の発展並びに活性化に対し大変ご尽力をいただいております。この間、平成17年4月には黄綬褒章を受章されたほか、数々の表彰を受けられて来られました。このたび長年のご功績が認められ、栄えある叙勲を受章されましたことは、ご本人の栄誉であるばかりではなく、佐野市の大きな誇りでもあり、私自身、大変嬉しく感じております。今後とも佐野市の地域経済の発展のため、そして本市が北関東の新中核的都市として飛躍していけますようご指導賜りたいと思います」と述べた。

久保氏は「遠藤様は目の付け所の良さ、努力、運の強さがあり、漬物の中でも生姜を主力に扱い、いまでは業務用がりのトップメーカーに成長されました。遠藤様は会社だけではなく、業界の活動にも熱心に取り組まれ、栃木県漬物工業協同組合理事長、関東漬物協議会会長、全日本漬物協同組合連合会副会長の要職を歴任されました。漬物業界において多大なる貢献をされています。遠藤様の人柄と卓越した見識、機動力の賜物であると深く敬意を表します。これからも業界のために我々に後輩にご指導をいただきたいと思います」と述べた。亀田氏は「創業より50年を迎えられている遠藤食品様は漬物を通して日本の味を愛するという経営理念の下、本物の食の豊かさと便利さを探求していただき、伝統的な味である漬物が食卓に日々乗せられますよう、また遠藤様におかれましては健康には十分留意されまして地域の優良企業としてのご活躍と末永くご発展を祈念しています」と述べた。

祝電披露の後、記念品贈呈に移り、全漬連専務理事の藤川研四郎氏、同常務理事の菅野行雄氏、関漬監事の深山喜一氏、栃木漬協理事の塩田孝氏、公益社団法人佐野法人会会長の藤波一博氏、佐野商工会議所副会頭の金子重雄氏、寧徳遠藤食品有限公司董事長の呉邦経氏と同副董事長の彭敬鋒氏、遠藤食品社員代表として工場長の中田昌宏氏より記念品が贈られ、お孫さんより花束が贈呈された。

最後に遠藤会長が謝辞（別掲）を述べ、感謝の意を示した。司会の遠藤悠里さんが会長御夫妻のエピソードを披露するなど、遠藤食品の社風を表すアットホームな雰囲気の中、佐野商工会議所会頭の島田嘉内氏による閉会のことばで閉会となった。

久保氏

岡部氏

島田氏

亀田氏

家族に祝福される遠藤会長御夫妻

遠藤栄一社長お礼のことば

本日は大変お忙しい中、日本全国、そしてタイ、中国から300名の方にお集まりいただきまして誠にありがとうございました。また、長時間にわたりお付き合いいただき、重ねて感謝を申し上げます。

私たちは創業から53年が経ちました。会長の言葉にある通り、皆様を大切に、皆様に感謝して過ごしてきた日々だったと思います。これから私たちは今以上に兄弟3人、社員一同で皆様を大切にして感謝をして会社運営をしていきたいと思っています。皆様の変わらぬご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。最後になりますが、私たち遠藤食品は皆様と約束をしたいと思います。遠藤食品は100年企業を目指し、社員一致団結して頑張っていきたいと思います。本日は本当にありがとうございました。

遠藤栄会長謝辞

「本日はご多用のところ、遠方から多くの方にご臨席を賜り、このような盛大な祝賀会を開催させていただき本当にありがとうございます。皆様から身に余るお言葉をいただき、感激しております。不肖、私こと平成17年春に黄綬褒章を受章させていただき、本日と同じ会場で祝賀会を開催させていただきました。昨年は旭日双光章の栄に浴し、過日農水省において家内共々農水大臣より直接伝達を受けて参りました。また皇居に参内し、天皇陛下の拝謁を賜り、親しくねぎらいと励ましのお言葉を頂きましたことは、私にとりましてこれに過ぎる栄誉はございません。昭和36年より漬物製造会社を創業し、以来53年間、漬物一筋の人生でした。近年、日本人の伝統的な和食がユネスコ無形文化遺産に登録されました。一汁三菜を基本とする日本の食事には漬物は欠かせないものです。微力ながらもそうした食文化の一端を担う仕事に携わることができたことは大きな喜びです。業界におきましても皆様のご指導をいただき、栃木県漬物工業協同組合の青年部をスタートさせました。理事長、関東漬物協議会長、全日本漬物協同組合連合会の副会長を務めさせていただきました。先輩方には大変お世話になりました。また地元においても商工会、商工会議所、法人会の役員も務めさせていただき、皆様方の長年にわたるご指導、ご鞭撻を賜りましたことを心より感謝申し上げます。この度の受章は私一人に賜ったものではなく、業界全体、そして地域の皆様のおかげです。皆様のご温情に少しでも応えることができるよう、微力ではありますが業界と地域のために努力してまいりたいと思います。また、会社の方でございますが、5年前から長男の栄一が社長となり、次男の計二が専務となり、長女のあゆみは監査役として頑張っています。人生経験が浅い3人ではございますが、今後とも末永くご指導、ご鞭撻をいただきますようよろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、御礼のことばとさせていただきます」

第二部
遠藤社長が家族の絆を表現
自作ムービーで感動を呼ぶ

第一部終了後、祝賀会が開催され全漬連の籠島忠作副会長が開宴のことばを述べ、「遠藤様には今後ともお元気でいていただきたいと思っておりますし、生姜レポートも楽しみにしています。漬物業界の更なる発展のためにご尽力いただいております。本当にありがとうございます」と感謝の言葉を述べた。

株式会社足利銀行頭取の松下正直氏（同専務熟行役の堀江裕氏代読）がお祝いのことばを述べ、「この度の栄えある受賞は遠藤会長様が多年に亘り、食品産業の振興に寄与されてこられたご功績が認められたものであり、心よりお慶び申し上げます。創業当時、それぞれのお店が独自の方法で作っていたがりに着目され遠藤会長様は研究開発を進められ、いち早く製造工程の機械化に取り組まれ、がりの商品を供給し大きな反響を呼んだとうかがっています。いまでは全国鮨組合の指定商社として広くその名を知られております。漬物業界においても数々の要職を歴任され、業界の発展に貢献をされました。地域経済の発展にも貢献され、多年に亘るご功績が認められ、この度の叙勲の栄に浴されたことは栃木県の誇りです」と功績を称えた。

全漬連監事の泰地武氏の乾杯発声で開宴となり、しばし歓談の時間が続く中、遠藤会長と邦子令夫人が全テーブルを回って声をかけながら全員と写真を撮影。出席者に感謝の意を示した。アトラクションではソプラノ歌手の森内薫氏と大野美智子氏のピアノ伴奏が披露され、会場に響き渡る歌声に魅了された。会が終盤に差し掛かると、遠藤会長と邦子夫人の背中を見て育った遠藤社長が感謝の気持ちを込めて自ら制作したメモリアルムービーを披露。遠藤会長の努力はもちろん、会長を支えた邦子夫人、家族の絆によっていまの遠藤食品があることが表現され、会場は感動の渦に包まれた。

栃木県漬物工業協同組合副理事長の菅野弘氏が音頭をとって全員で万歳三唱。会場が一つになった。最後に遠藤社長がお礼のことば（別掲）を述べて祝賀会の幕を閉じた。

堀江氏

籠島氏

菅野氏

泰地氏

漬物一筋の人生を歩む
地域活性化にも貢献

遠藤栄氏は昭和36年に生姜の産地だった栃木県佐野市下彦間町（旧安蘇郡田沼町）で創業し、生姜一筋の人生を歩んできた。寿司屋の各店で作られていた「がり」に着目し、工場でスライスした「がり」の完成品を納入して大きな反響を呼んだ。機械化や情報システムの構築を進め、いまや業務用がりのトップシェアを誇り、『新がり』、『新がり完成品』の商標登録並びに全国鮨組合の指定商社として広く知られるメーカーに成長。全日本漬物協同組合連合会でも副会長などの要職を歴任し、漬物業界の発展に貢献した。

【略歴】昭和16年7月28日生まれ。同31年3月に田沼町立新合中学校を卒業し、同年4月に菊地食品工業株式会社勤務。同36年3月に同社を退職し、同年4月に遠藤食品漬物工場を創業。同48年5月に遠藤食品工業株式会社の代表取締役社長に就任。同62年9月に遠藤食品株式会社（社名変更）の代表取締役社長に就任。平成22年5月に代表取締役会長に就任。漬物業界では栃木県漬物工業協同組合理事長、関東漬物協議会会長、全国漬物検査協会理事・監事、全日本漬物協同組合連合会副会長などを歴任。民間団体でも佐野商工会議所常議員、安佐法人会常任理事、佐野法人会常任理事、栃木県法人会連合会組織委員などを務め、地元の活性化に貢献した。平成17年4月に黄綬褒章（食料品加工振興功労）を受章した他、数多くの栄に浴している。